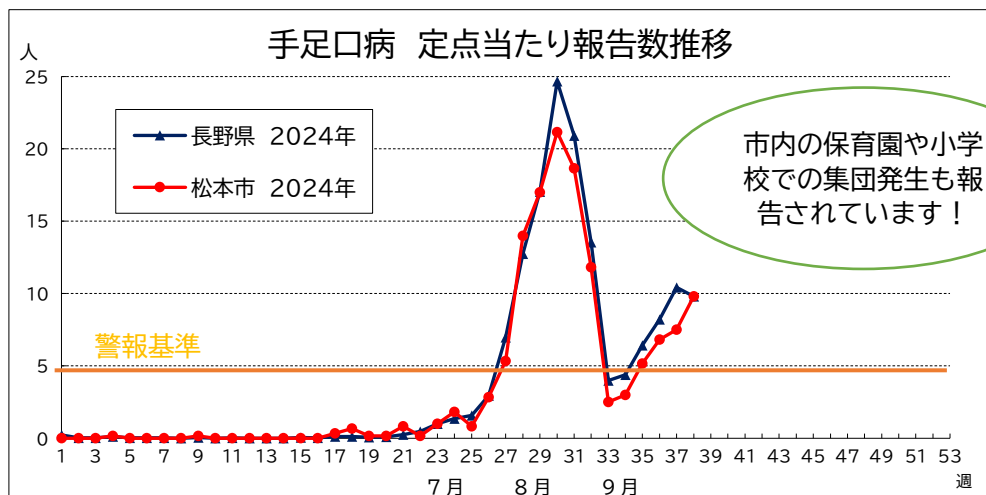


気をつけよう！感染症（令和6年第4号）

令和6年10月2日発行
松本市保健所保健予防課

いま気をつけたい 手足口病

報告数が警報基準を超え続けています！



手足口病とは

子どもを中心に、主に夏に流行します。2歳以下が半数を占めますが、小学生でも流行的発生がみられることがあります。

感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足背(足の甲)などに2～3mmの水疱を伴う複数の発(ほっ)しんが出ます。発熱は約3分の1にみられますが、38℃以下のことが多く高熱が続くことは通常はありません。ほとんどの発病者は、3～7日のうちに治る病気です。

しかし、まれに、髄膜炎、小脳失調症、脳炎といった中枢神経系の合併症などの重篤な合併症を伴うことがあります。

予防のポイント

飛沫感染、接触感染、便と一緒に排泄されたウイルスが口に入っ
て感染することが知られています。

○流水や石けんによる手洗いをしましょう。

アルコールが効きにくいので、外から帰った後や食事の前、トイレの後などに石けんでよく手洗いをしましょう。

○排泄物を適切に処理しましょう。

症状が落ち着いた後も、患者の便からはウイルスが排泄されます。
トイレの後やオムツ交換の後の手洗いを徹底しましょう。

○タオルの共用を避けましょう。

治療方法は？

○特効薬はありません

- 発熱やのどの痛みなどのつらい症状を和らげる対症療法が中心です。
自宅で安静に過ごしましょう。刺激の強い食べ物や熱い物は避けるようにしましょう。
- 脱水症予防のため、こまめに水分や塩分をとりましょう。



詳しくはこちら
厚生労働省 手足口病について

